

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念の唱和、理念に対する意識は浸透しているが、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念になっていない。(括りが大きい)ため、地域生活の継続支援及びホームと地域の関係性を盛り込んだ現状に合った理念を職員全員で確認し作り上げる。	地域密着型サービスの意義を盛り込んだ理念により地域への意識が高まり地域支援生活が継続できる。	①理念にどんな文言を入れたいか職員それぞれにアンケートを取る。 ②アンケート結果を基に職員で話し合い理念を作り地域に馴染んだグループホームを目指す。	3ヶ月
2	3	推進会議のあり方が型にはまっていてマンネリ化している。日中開催や誰もが参加しやすい環境を整え、ホーム側、参加委員双方が意見を言いやすい会議をめざします。	日中、夜間ともに参加しやすい会議が行えるよう環境を整え有意義な会議が行えるようになる。	①状況報告等は資料参照で簡潔に行うようにし、推進会議を日中行うことで、日々の暮らしやケアを実際に見て頂けるような会議にする。 ※外部評価後の推進会議を日中開催し、状況報告後に利用者と一緒に食事会を実施した。(3/7)	1ヶ月
3	13	定期的な火災訓練の実施を行っているが、火災だけでなく地域にあった災害を想定し訓練を行っていく。また、物品の準備、備蓄等充実を図る。また、災害マニュアルが整備されているため、保管場所を定め何時でも職員が見れるように管理したい。	年2回の火災訓練以外にホーム独自の防災訓練を実施します。	①職員間で防災訓練について話し合い早い段階で地震が起きた時の訓練を行っていく。 ②訓練方法も普段の生活の中で実施できるような簡単な訓練も適宜取り入れ、利用者、職員ともに防災の意識を高められるよう確認を行う。	2ヶ月
4	15	利用者と職員と一緒に食事を食べているが、食事は単に食欲や栄養を満たすためだけでなく生産や調理する過程を通して得られる喜びや楽しみがあるが、一緒に同じものを食べることで共通の話題で楽しく食事ができるよう支援したい。	利用者と職員が同じ食事をとり、食の喜びや会話を楽しみながら食卓を囲むことができるようになる。	①今の状況で何ができるかを職員と一緒に考えていく。週に1回は小鉢または汁物を手作りするなど今できることから少しずつ実施実施する。また、給食については運営者へ相談し楽しく食卓を囲めるよう努力する。	1ヶ月
5	17	入浴の曜日はある程度決めているが入浴時間は個々の希望やタイミングに合わせて行っている。今後は一人ひとりの生活習慣やその時の希望を大切にしたい支援を行っていききたい。	利用者の生活史や習慣を把握、理解し一人ひとりに合った入浴ができるようになる。	①利用者の生活歴や習慣等を再度ご家族より情報を頂く(センター方式暮らしのシート利用) ②利用者の希望で入れる時間と人を確保する。(業務の見直し、改善) ③入浴嫌いの方もその要因となるものを探っていく。	3ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。